

【日本語論文】

1. 大橋博司・木村敏 (1961) 「視空間失認および種々の病巣発作を呈した一例」『精神医学』第3巻第9号、785～789頁。
2. 木村敏・石田千鶴子・河合逸雄 (1965) 「Tofranil 定式療法による抑うつ患者の治療について」『精神医学』第7巻第9号、805～809頁。
3. 木村敏 (1965) 「精神分裂病症状の背後にあるもの」『哲学研究』第43巻第3号 (第497号) 255～292頁 (『分裂病の現象学』、著作集1)。
4. 木村敏 (1966) 「ふたたび Tofranil 定式療法について」『精神医学』第8巻第4号、343～345頁。
5. 村上仁・木村敏 (1966) 「精神病理学の潮流 (1) ヨーロッパ」『異常心理学講座』7巻、みすず書房、91～160頁 (『分裂病の現象学』、著作集5)。
6. 木村敏 (1967) 「Präcoxgefühl に関する自覚論的考察」『精神医学』第9巻第2号、120～125頁 (『分裂病の現象学』、著作集1)。
7. 木村敏 (1967) 「非定型精神病の臨床像と脳波所見との関連に関する縦断的考察」『精神神経学雑誌』第69巻第11号、1237～1259頁 (『直接性の病理』、著作集5)。
8. 木村敏・山村靖 (1968) 「Defekton の臨床適応に関する批判的論考——いわゆる「分裂病欠陥状態」の精神病理学的考察」『精神医学』第10巻第3号、229～234頁 (著作集5)。
9. 木村敏 (1968) 「うつ病と罪責体験」『精神医学』第10巻第5号、375～380頁 (『自己・あいだ・時間』、著作集3)。
10. 木村敏 (1968) 「新抗うつ剤 Dimethacrin の使用経験」『精神医学』第10巻第5号、417～422頁。
11. 木村敏 (1968) 「身体的症状を主徴とする心的失調の診断と治療」『診療と新薬』第5巻第6号、1165～1170頁。
12. 木村敏 (1968) 「祈祷性感応精神病の1家族例 第1部 精神医学的考察」『臨床心理学研究』第7巻第2号、107～114頁。
13. 木村敏・坂敬一・山村靖・浅見勲・吉川義和 (1968) 「家族否認症候群について」『精神神経学雑誌』第70巻第12号、1085～1109頁 (著作集5)。
14. 木村敏 (1969) 「分裂病様症状を呈する内因性精神病に対する Dimethacrine (Istonil) の効果——新しい薬効検定方法の試み」『精神医学』第11巻第12号、991～996頁。
15. 木村敏 (1970) 「新抗うつ剤 Clomipramin (Anafranil) の使用経験」『診療と新薬』第7巻、377～385頁。
16. 木村敏・守田嘉男 (1971) 「難治性陳旧精神病者に対する Spiroperidol の使用経験」『新薬と臨床』第20巻、553～559頁。
17. 木村敏 (1972) 「医者と患者——病気と狂気の意味をめぐって」『思想の科学』1972年7号、30～36頁 (『分裂病の現象学』、著作集8)。

18. 木村敏 (1972) 「Pimozide による慢性精神病の治療について」『精神医学』第 14 巻第 8 号、755～760 頁。
19. 木村敏 (1972) 「精神分裂病論への成因論的現象学の寄与」土居健郎編『分裂病の精神病理』第 1 巻、東京大学出版会、139～160 頁 (『分裂病の現象学』、著作集 1)。
20. 木村敏 (1972) 「性格と状況・総論」新福尚武編『躁うつ病』医学書院、93～107 頁 (『自己・あいだ・時間』、著作集 3)。
21. 木村敏 (1973) 「メメント・モリ」『思想の科学』1973 年 1 号、2～10 頁 (『分裂病の現象学』、著作集 8)。
22. 木村敏 (1973) 「躁うつ病の非定型病像」『臨床精神医学』第 2 巻第 1 号、19～28 頁 (『直接性の病理』、著作集 4)。
23. 木村敏 (1974) 「人類の異常と個人の異常」『思想の科学』1974 年 2 号、2～11 頁 (『分裂病の現象学』、著作集 8)。
24. 木村敏 (1974) 「身体と自己——分裂病的身体経験をめぐって」宮本忠雄編『分裂病の精神病理』第 2 巻、東京大学出版会、243～273 頁 (『分裂病の現象学』、著作集 1)。
25. 木村敏 (1974) 「てんかん者の精神病理——人間学的考察」原俊夫他編『てんかんの臨床と理論』医学書院、415～422 頁 (『直接性の病理』、著作集 4)。
26. 木村敏 (1974) 「妄想的他者のトポロジイ」木村敏編『分裂病の精神病理』第 3 巻、東京大学出版会、97～121 頁 (『分裂病の現象学』、著作集 1)。
27. 木村敏 (1975) 「うつ病の臨床精神医学的研究の動向 (1959—1973)」『精神医学』第 17 巻第 1 号、4～32 頁 (著作集 5)。
28. 木村敏 (1975) 「分裂病の診断」『臨床精神医学』第 4 巻第 5 号、491～498 頁。
29. 木村敏 (1975) 「症状論」横井晋他編『精神分裂病』医学書院、106～138 頁 (『分裂病の現象学』、著作集 1)。
30. 木村敏 (1975) 「宗教と狂気」『伝統と現代』第 36 号、52～54 頁。
31. 木村敏 (1975) 「てんかんの精神病理」『臨床精神医学』第 4 巻第 10 号、1161～1167 頁 (『直接性の病理』、著作集 4)。
32. 木村敏 (1975) 「文化と精神障害」大原健士郎他編『現代人の異常性 (2) ——精神の異常とはなにか』至文堂、237～252 頁。
33. 笠原嘉・木村敏 (1975) 「うつ状態の臨床的分類に関する研究」『精神神経学雑誌』第 77 巻第 10 号、715～735 頁。
34. 木村敏 (1976) 「いわゆる「うつ病性自閉」をめぐって」笠原嘉編『躁うつ病の精神病理』第 1 巻、弘文堂、91～116 頁 (『自己・あいだ・時間』、著作集 3)。
35. 木村敏 (1976) 「「自然」について」『第三文明』1976 年 8 月号 (第 186 号)、6～18 頁 (『自分ということ』、著作集 3)。

36. 木村敏 (1976) 「分裂病概念はいかにして可能か」『精神神経学雑誌』第 78 巻第 4 号、334~337 頁。
37. 木村敏 (1976) 「離人症」懸田克躬他編『現代精神医学大系 3B——精神症状学 I』中山書店、109~143 頁 (『自己・あいだ・時間』、著作集 5)。
38. 木村敏 (1976) 「分裂病の時間論——非分裂病性妄想病との対比において」笠原嘉編『分裂病の精神病理』第 5 巻、東京大学出版会、1~31 頁 (『自己・あいだ・時間』、著作集 2)。
39. 木村敏 (1977) 「自己とはなにか」『第三文明』1977 年 1 月号 (第 191 号)、16~27 頁 (『自分ということ』、著作集 3)。
40. 木村敏 (1977) 「「あいだ」と「ま」」『第三文明』1977 年 10 月号 (第 200 号)、8~18 頁 (『自分ということ』、著作集 3)。
41. 木村敏 (1977) 「青年期の精神病理」『展望』第 230 号、10~11 頁。
42. 由良了三・木村敏他 (1977) 「Maprotiline の各種うつ状態に対する効果」『薬物療法』第 10 巻、43~51 頁。
43. 山口真・森省二・中里均・木村敏 (1977) 「各種のうつ状態に対する Amoxapine の使用経験」『診療と新薬』第 14 巻第 11 号、2873~2886 頁。
44. 木村敏 (1978) 「思春期病理における自己と身体」中井久夫・山中康裕編『思春期の精神病理と治療』岩崎学術出版社、321~341 頁 (『自分ということ』、著作集 2)。
45. 木村敏 (1978) 「存在論的差異と精神病」『理想』1978 年 7 号 (第 542 号)、112~127 頁 (『自分ということ』、著作集 2)。
46. 木村敏 (1978) 「「み」と「私」——共同主観的精神医学の構想」『精神神経学雑誌』第 80 巻第 5 号、206~209 頁。
47. 木村敏 (1978) 「比較文化精神医学序説——若干の基本概念の検討」荻野恒一編『文化と精神病理』弘文堂、3~27 頁 (『自己・あいだ・時間』、著作集 3)。
48. 木村敏 (1978) 「うつ病の精神病理的側面」『臨床医』第 4 巻第 12 号、59~62 頁。
49. 木村敏 (1979) 「内因性精神病の人間学的理解——「内因性」の概念をめぐる」『精神医学』第 21 巻第 6 号、16~23 頁 (『自己・あいだ・時間』、著作集 2)。
50. 木村敏 (1979) 「ハイデッガーと精神医学——分裂病問題を軸として」『現代思想』第 7 巻第 12 号、16~23 頁 (『自分ということ』、著作集 7)。
51. 木村敏 (1979) 「時間と自己・差異と同一性——分裂病論の基礎づけのために」中井久夫編『分裂病の精神病理』第 8 巻、東京大学出版会、115~140 頁 (『自己・あいだ・時間』、著作集 2)。
52. 森省二・木村敏 (1979) 「躁うつ病像を呈する分裂病」飯田真編『躁うつ病の精神病理』第 3 巻、弘文堂、107~131 頁。
53. 木村敏 (1979) 「比較文化論的精神病理学」『現代精神医学大系 9B——躁うつ病 II』中山書店、139~155 頁 (著作集 3)。

54. 木村敏 (1980) 「自己・あいだ・分裂病」『現代思想』第 8 卷第 11 号、76~90 頁 (『自己・あいだ・時間』)。
55. 木村敏 (1980) 「精神医学と現象学」木田元他編『講座・現象学四——現象学と人間諸科学』弘文堂、215~243 頁 (『自己・あいだ・時間』、著作集 1)。
56. 木村敏 (1980) 「てんかんの存在構造」木村敏編『てんかんの人間学』東京大学出版会、59~100 頁 (『直接性の病理』、著作集 4)。
57. 木村敏 (1981) 「診断」『現代精神医学大系 10A1——精神分裂病 I a』中山書店、181~214 頁 (『自己・あいだ・時間』、著作集 5)。
58. 木村敏 (1981) 「「間」と個人——現象学的精神医学の立場から」『日本人と「間」——伝統文化の源泉』講談社、205~249 頁 (『自分ということ』)。
59. 木村敏 (1981) 「鬱病と躁鬱病の関係についての人間学的考察」木村敏編『躁うつ病の精神病理』第 4 卷、弘文堂、1~39 頁 (『直接性の病理』、著作集 4)。
60. 木村敏 (1982) 「あいだと時間の病理としての分裂病」『臨床精神病理』第 3 巻第 1 号、17~24 頁 (『分裂病と他者』、著作集 2)。
61. 山村均・中西雅夫・木村敏・吉永俊一 (1982) 「熱性けいれんの予後」『脳と発達』第 14 巻第 2 号、138~143 頁。
62. 木村敏 (1982) 「文化精神医学からメタ文化精神医学へ」『社会精神医学』第 5 巻第 3 号、211~215 頁 (著作集 3)。
63. 木村敏 (1983) 「自己と他者」『岩波講座・精神の科学』第 1 巻、岩波書店、177~214 頁 (『分裂病と他者』、著作集 2)。
64. 木村敏 (1983) 「他者の主体性の問題」村上靖彦編『分裂病の精神病理』第 12 巻、東京大学出版会、213~237 頁 (『分裂病と他者』、著作集 2)。
65. 木村敏 (1983) 「非定型精神病の人間学的分類の試み——人間学的診断の臨床的意義」土居健郎他編『精神医学における診断の意味』東京大学出版会、171~200 頁 (『直接性の病理』、著作集 4)。
66. 木村敏 (1984) 「てんかんの人間学」秋元波留夫他編『てんかん学』岩崎学術出版、554~566 頁 (『直接性の病理』、著作集 4)。
67. 加藤正・鈴木幸子・伊藤直樹・生田孝・小久保至浩・保科正章・鈴木茂・坂本暢典・長井真理・南誠・佐藤良暉・田中誠・奥村透・向井巧・早稲田直久・平山太日子・木村敏 (1984) 「Bromperidol の臨床使用経験」『新薬と臨床』第 33 巻 6 号、79~87 頁。
68. 市川徳政・吉田昌世・篠田明美・早稲田直久・清水将之・木村敏・吉永俊一・匹田幸余・桜井明夫・中西雅夫・山村均 (1984) 「心理検査からみたてんかん者の性格特徴」『名古屋市立大学医学会雑誌』第 35 巻第 4 号、442~448 頁。
69. 木村敏 (1985) 「家族否認症候群」『臨床精神医学』第 14 巻第 4 号、557~560 頁 (『分裂病と他者』、著作集 5)。

70. 木村敏 (1985) 「精神医学における現象学の意味」『現象学年報』第 2 巻、7~24 頁 (『分裂病と他者』、著作集 7)。
71. 高橋三郎・高橋良・笠原嘉・木村敏・野村純一・藤縄昭・中根允文 (1985) 「いわゆる内因性精神病の分類と診断基準試案」『精神医学』第 27 巻第 7 号、761~770 頁。
72. 木村敏 (1986) 「合奏音楽と精神分裂病——「あいだ」と「間」の問題をめぐって」梅本堯夫他編『アブサラス』音楽之友社、85~96 頁。
73. 市川徳政・竹谷一雄・鈴木幸子・早稲田直久・滝良明・木村敏 (1986) 「Benzodiazepine 系睡眠薬 Lormetazepam の臨床効果」『薬理と治療』第 13 巻第 3 号、187~194 頁。
74. 鈴木祐一郎・坂本暢典・田中誠・鈴木康之・鈴木幸子・佐藤良輝・小久保至浩・松井江美子・大島裕隆・早稲田直久・安楽一隆・木村敏 (1986) 「Haloperidol Decanoate の臨床使用経験」『臨床医薬』第 1 巻、59~76 頁。
75. 木村敏 (1986) 「時間と不安」『時間——東と西の対話』服部セイコー／河出書房新社、242~259 頁。
76. 木村敏 (1986) 「ヘルダーリンの「狂気」は詐病だったか」『日本病跡学雑誌』第 31 号、93~96 頁 (『形なきものの形』、著作集 8)。
77. 木村敏 (1986) 「老年期の躁うつ病における妄想」『老年精神医学』第 3 巻第 3 号、310~318 頁 (著作集 3)。
78. 木村敏 (1986) 「直観的現象学と差異の問題——現象学的精神医学の立場から」村上英治編『現象学からの提言・人間性心理学への道』誠信書房、50~72 頁 (『分裂病と他者』、著作集 8)。
79. 木村敏 (1986) 「危機とはなにか」『青年心理』第 60 巻、2~11 頁 (『分裂病と他者』)。
80. 木村敏 (1986) 「離人症における他者」高橋俊彦編『分裂病の精神病理』第 15 巻、東京大学出版会、57~79 頁 (『分裂病と他者』、著作集 2)。
81. 木村敏 (1987) 「自己の病理と「絶対の他」」『現代思想』第 15 巻第 12 号、204~217 頁 (『分裂病と他者』、著作集 2)。
82. 木村敏 (1988) 「現象学的精神病理学と“主体の死”——内因の概念をめぐって」『精神医学』第 30 巻第 4 号、381~388 頁 (『分裂病と他者』、著作集 2)。
83. 木村敏 (1988) 「境界例における「直接性の病理」」村上靖彦編『境界例の精神病理』弘文堂、99~128 頁 (『分裂病と他者』、著作集 4)。
84. 木村敏 (1988) 「ドイツ精神病理学の動向」『精神医学』第 30 巻第 10 号、1062~1072 頁 (著作集 5)。
85. 木村敏 (1989) 「離人症と行為的直観」『精神科治療学』第 4 巻第 11 号、1357~1365 頁 (『分裂病と他者』、著作集 7)。

86. 木村敏 (1990) 「自己性と自我性の問題をめぐって——中嶋聡氏の「意識作用の構造の問題としての分裂病性自我障害」に対する討論」『精神神経学雑誌』第 92 巻第 6 号、367~374 頁。
87. 木村敏 (1990) 「自己の病理と「絶対の他」」上田閑照編『西田哲学への問い』岩波書店、283~315 頁 (日本語論文 74 の再録)。
88. 木村敏 (1990) 「表現と精神病理」家族画研究会編『臨床描画研究 Annex 2』金剛出版、7~18 頁。
89. 木村敏 (1990) 「精神病理学 1 総論」木村敏・松下正明・岸本英爾編『精神分裂病——基礎と臨床』朝倉書店、1~6 頁。
90. 木村敏 (1990) 「治療 1 総論 (1)」木村敏・松下正明・岸本英爾編『精神分裂病——基礎と臨床』朝倉書店、542~547 頁 (『分裂病と他者』、著作集 5)。
91. 山岸洋・木村敏 (1990) 「基礎障害理論」木村敏・松下正明・岸本英爾編『精神分裂病——基礎と臨床』朝倉書店、66~74 頁。
92. 木村敏 (1990) 「躁とうつ」土居健郎他編『異常心理学講座 6——神経症と精神病 3』みすず書房、1~53 頁 (著作集 3)。
93. 木村敏 (1991) 「生命との関わり」『Imago』第 2 巻第 4 号、20~27 頁 (『生命のかたち／かたちの生命』、著作集 4)。
94. 木村敏 (1991) 「主体と主体性」『Imago』第 2 巻第 5 号、32~40 頁 (『生命のかたち／かたちの生命』、著作集 4)。
95. 木村敏 (1991) 「生命における個体と集団——脳死の問題をめぐって」『Imago』第 2 巻第 6 号、32~40 頁 (『生命のかたち／かたちの生命』、著作集 4)。
96. 木村敏 (1991) 「分裂病について 1」『Imago』第 2 巻第 7 号、24~32 頁 (『生命のかたち／かたちの生命』、著作集 4)。
97. 木村敏 (1991) 「分裂病について 2」『Imago』第 2 巻第 8 号、22~30 頁 (『生命のかたち／かたちの生命』、著作集 4)。
98. 木村敏 (1991) 「かたちと時間——ヴァイツゼッカー」『Imago』第 2 巻第 9 号、32~40 頁 (『生命のかたち／かたちの生命』、著作集 4)。
99. 木村敏 (1991) 「かたちの生成と消滅——ヘルダーリン 1」『Imago』第 2 巻第 10 号 22~31 頁 (『生命のかたち／かたちの生命』、著作集 4)。
100. 木村敏 (1991) 「かたちの生成と消滅——ヘルダーリン 2」『Imago』第 2 巻第 11 号、22~29 頁 (『生命のかたち／かたちの生命』、著作集 4)。
101. 木村敏 (1991) 「コギトと自己」『Imago』2 巻 12 号、36~46 頁 (『生命のかたち／かたちの生命』、著作集 4)。
102. 木村敏 (1992) 「治療関係のエステジオロギー」『Imago』第 3 巻第 1 号、36~45 頁 (『生命のかたち／かたちの生命』、著作集 4)。
103. 木村敏 (1992) 「内部と外部」『Imago』第 3 巻第 2 号、32~42 頁 (『生命のかた

- ち／かたちの生命』、著作集 4)。
104. 木村敏 (1992) 「生命とかたち」『Imago』第 3 巻第 3 号、24～31 頁 (『生命のかたち／かたちの生命』、著作集 4)。
 105. 木村敏 (1992) 「関係としての人間」『メディカル・ヒューマニティ』第 6 巻第 2 号、22～26 頁。
 106. 木村敏 (1992) 「真理・ニヒリズム・主体」『岩波講座・宗教と科学 4——宗教と自然科学』岩波書店、37～68 頁 (『偶然性の精神病理』、著作集 7)。
 107. 木村敏 (1993) 「非うつ病性抑うつ症状について」『日本医事新報』第 3586 号、21～24 頁。
 108. 木村敏 (1993) 「時間の間主観性」『現代思想』第 21 巻第 3 号、81～96 頁 (『偶然性の精神病理』、著作集 7)。
 109. 木村敏 (1993) 「タイミングと自己」三好暁光編『精神医学と哲学』金剛出版、9～30 頁 (『偶然性の精神病理』、著作集 7)。
 110. 木村敏 (1993) 「関係としての自己」濱口恵俊編『日本型モデルとは何か』新曜社、31～43 頁 (『分裂病の詩と真実』)。
 111. 木村敏 (1993) 「無意識と主体性——遺伝子のゲシュタルトクライス」『岩波講座・現代思想 3——無意識の発見』岩波書店、287～320 頁 (『偶然性の精神病理』、著作集 7)。
 112. 木村敏 (1993) 「メタ精神医学としての現象学的精神病理学」『臨床精神病理』第 14 巻第 3 号、177～182 頁 (『分裂病の詩と真実』、著作集 5)。
 113. 木村敏 (1994) 「分裂病の現象学と進化論的思弁」村上靖彦編『分裂病の精神病理と治療』第 5 巻、星和書店、1～32 頁 (『心の病理を考える』、著作集 5)。
 114. 木村敏 (1994) 「家族否認症候群」『臨床精神医学』第 23 巻 5 号、185～189 頁。
 115. 木村敏 (1994) 「自己の病理を求めて——回顧と展望」『臨床精神病理』1 第 5 巻第 1 号、5～11 頁。
 116. 木村敏 (1994) 「居場所について」磯崎新・浅田彰編『Anywhere——空間の諸問題』NTT 出版、36～45 頁 (『偶然性の精神病理』として『偶然性の精神病理』、著作集 7)。
 117. 木村敏 (1995) 「文化と精神医学——人間学的精神病理学の観点から」『日本社会精神医学雑誌』第 3 巻第 2 号、152～158 頁 (『分裂病の詩と真実』、著作集 3)。
 118. 木村敏 (1995) 「エスについて——フロイト・グロデック・ブーバー・ハイデッガー・ヴァイツゼッカー」『思想』第 852 号 (1995 年 6 月号)、4～25 頁 (『分裂病の詩と真実』、著作集 7)。
 119. 木村敏 (1995) 「西田哲学と医学的人間学」『思想』第 857 号 (1995 年 11 月号)、71～87 頁 (『分裂病の詩と真実』、著作集 7)。
 120. 木村敏 (1995) 「自己と他者」『岩波講座・現代社会学 2——自我・主体・アイデン

- ティティ』岩波書店、13～44頁（『分裂病の詩と真実』、著作集7）。
121. 木村敏（1995）「生の現象学——心身二元論の止揚へ向けて」『精神神経学雑誌』第97巻第9号、719～722頁（『分裂病の詩と真実』、著作集8）。
 122. 木村敏（1996）「フロイトとヴァイツゼッカー」『Imago』臨時増刊『フロイトと精神分析の現在』（1996年2月号）、138～147頁。
 123. 木村敏（1996）「心身相関と間主観性」『大谷学報』第75巻第3号、48～55頁。
 124. 木村敏（1996）「分裂病の詩と真実」新宮一成編『意味の彼方へ——ラカンの治療学』金剛出版、31～46頁（『分裂病の詩と真実』、著作集7）。
 125. 木村敏（1996）「コギトの自己性——生命論的考察」中村雄二郎・木村敏監修『講座生命96——生命の思索』哲学書房、254～281頁（『分裂病の詩と真実』、著作集7）。
 126. 木村敏（1996）「精神分裂病における自己と自然さの障害」芦津丈夫・木村敏・大橋良介編『文化における〈自然〉——哲学と科学のあいだ』人文書院、103～114頁。
 127. 木村敏（1997）「ゲシュタルトクライス」宮本省三・沖田一彦選『運動制御と運動学習』協同医書出版社、351～364頁（著作集8）。
 128. 木村敏（1997）「操作診断の問題点——人間学的精神医学の立場から」『精神神経学雑誌』第99巻第10号、746～749頁（『分裂病の詩と真実』、著作集8）。
 129. 木村敏（1997）「リアリティとアクチュアリティ」中村雄二郎・木村敏監修『講座生命97』哲学書房、75～110頁（『分裂病の詩と真実』、著作集7）。
 130. 木村敏（1998）「てんかん者の人間学的精神病理学」松下正明総編集『臨床精神医学講座9 てんかん』中山書店、465～471頁（著作集4）。
 131. 木村敏（1998）「意味の歴史性——来歴否認症候群の精神病理学的考察を通じて」中村雄二郎・木村敏監修『講座生命98』哲学書房、77～117頁（著作集8）。
 132. 木村敏（1999）「精神の科学は可能か」岡田節人・佐藤文隆他編『岩波講座・科学／技術と人間1——問われる科学／技術』岩波書店、219～246頁（著作集8）。
 133. 木村敏（2000）「精神医学とニューロサイエンス——人称性の観点から」『精神医学』第42巻第2号、165～170頁（著作集8）。
 134. 木村敏（2000）「音と音のあいだ——音楽と共通感覚」『国際高等研究所報告書——わが学』1999年4月号、87～95頁。
 135. 木村敏（2000）「対人恐怖における私的な「私」と公共的な「私」の交錯」中村雄二郎・木村敏監修『講座生命2000』第4巻、河合文化教育研究所、264～293頁（『関係としての自己』）。
 136. 木村敏（2000）「自己の現象学——人間学的精神病理学の立場から」『人間性心理学研究』第18巻第1号、6～30頁。
 137. 木村敏（2001）「「間」の pathoaesthetics」『日本の美学』第33号、燈影舎、86～95頁。
 138. 木村敏（2001）「自分であるとはどのようなことか——自己性と他者性の精神病

- 理学のために」『臨床精神病理』第22巻第3号、191～200頁（『関係としての自己』）。
139. 木村敏（2002）「時間の人称性」広中平祐他編『時間と時——今日を豊かにするために』日本学会事務センター、261～273頁（『関係としての自己』）。
140. 木村敏（2002）「「あいだ」と恥ずかしさ、そして証言——アガンベンを読む」『批評空間』2002年4月号、120～131頁（『関係としての自己』）。
141. 木村敏（2002）「個別性のジレンマ——記憶と自己」中村雄二郎・木村敏監修『講座生命2002』第6巻、河合文化教育研究所、13～38頁（『関係としての自己』）。
142. 木村敏（2002）「生命論的差異の重さ」『日本の哲学3——特集生命』昭和堂、10～28頁（『関係としての自己』）。
143. 木村敏（2003）「〈あいだ〉と言葉」加藤敏編『新世紀の精神科治療7——語りと聴取』中山書店、25～35頁（『関係としての自己』）。
144. 木村敏（2003）「環境とあいだ」田路貴浩編『環境の解釈学——建築から風景へ』学芸出版社、27～61頁。
145. 木村敏（2004）「西田哲学と精神病理学」『精神療法』第30巻第1号、5～10頁（『関係としての自己』）。
146. 木村敏（2004）「他者性のクオリア」河本英夫他編『他者の現象学Ⅲ——哲学と精神医学の臨界』北斗出版、9～25頁（『関係としての自己』）。
147. 木村敏（2004）「一人称の精神病理学へ向けて——ヴォルフガング・ブランケンブルク氏の追悼のために」中村雄二郎・木村敏監修『講座生命2004』第7巻、河合文化教育研究所、121～150頁（『関係としての自己』）。
148. 木村敏（2004）「未来と自己——統合失調症の臨床哲学試論」『現象学年報』第20号、1～14頁（『関係としての自己』）。
149. 木村敏（2005）「「シーソー現象」再論——「非定型精神病の臨床像と脳波所見との関連に関する縦断的考察」をめぐって」『精神神経学雑誌』第107巻第2号、113～117頁。
150. 木村敏（2005）「『関係としての自己』序論」『みすず』2005年4月号、30～39頁（『関係としての自己』）。
151. 木村敏（2005）「自他の「逆対応」」『日本の哲学6——特集自己・他者・間柄』昭和堂、8～27頁（『あいだと生命』）。
152. 木村敏（2007）「精神医学から見た正常と異常」総合人間学会編『人間はどこにいくのか』学文社、167～184頁。
153. 木村敏（2007）「「心の病」ということ——「ことなり」としてのプシュケー」『SITE ZERO 一——〈病〉の思想／思想の〈病〉』メディア・デザイン研究所、36～41頁。
154. 木村敏（2008）「差異としての超越」横山博編『心理療法と超越性——神話的時間と宗教性をめぐって』人文書院、15～33頁。
155. 木村敏（2008）「「心の病」とはなにか」大橋良介他編『文明と哲学——日独文化

- 研究所年報』第1号、燈影舎、25～44頁。
156. 木村敏(2009)「物語としての生活史」木村敏・坂部恵監修『〈かたり〉と〈作り〉——臨床哲学の諸相』河合文化教育研究所、71～94頁(『あいだと生命』)。
157. 木村敏(2009)「クリーゼの病理——瞬間と生命」『思想』第1019号(2009年3号)、7～28頁。
158. 木村敏(2009)「私と汝の病理」『西田幾多郎全集』第24巻月報、岩波書店、2～12頁(『あいだと生命』)。
159. 木村敏(2009)「生命・身体・自己——統合失調症の病理と西田哲学」『文明と哲学——日独文化研究所年報』第2号、燈影舎、29～43頁(『あいだと生命』)。
160. 木村敏(2010)「自己・生命・時間」木村敏・大橋良介他編『文化における〈時間〉——日独文化研究所シンポジウム』燈影舎、92～109頁。
161. 木村敏(2010)「中動的自己の病理」『臨床精神病理』第31巻第3号、147～154頁(『あいだと生命』)。
162. 木村敏(2010)「自己の「実像」と「虚像」」『文明と哲学——日独文化研究所年報』第3号、燈影舎、27～40頁(『あいだと生命』)。
163. 木村敏(2012)「あいだと生死の問題」野間俊一編『いのちと病い——〈臨床哲学〉に寄せて』創元社、5～29頁(『あいだと生命』)。
164. 木村敏(2013)「自分が自分であるということ」木村敏・野家啓一監修『自己と他者——臨床哲学の諸相』河合文化教育研究所、112～132頁(『あいだと生命』)。
165. 木村敏(2013)「『パトゾフィー』について——岡本道雄先生の御霊前に捧げる」『文明と哲学——日独文化研究所年報』第5号、こぶし書房、13～24頁。
166. 木村敏(2013)「西田哲学と私の精神病理学」『西田哲学会年報』第10号、20～31頁(『あいだと生命』)。
167. 木村敏(2014)「精神医学と哲学」『文明と哲学——日独文化研究所年報』第6号、こぶし書房、6～16頁(「『人と人のあいだ』と『自己』」と改題して、日独文化研究所編『共同研究 共生』こぶし書房、2020年、187～203頁)。
168. 木村敏(2014)「自他関係における現勢態 actuality と潜勢態 virtuality」『臨床精神病理』第35巻第3号、283～289頁。
169. 木村敏(2015)「臨床の哲学」木村敏・野家啓一監修『臨床哲学とは何か——臨床哲学の諸相』河合文化教育研究所、74～94頁。
170. 木村敏(2015)「感性と悟性の統合としての自己の自己性——超越論的構想力の病理」木村敏・野家啓一監修『臨床哲学とは何か——臨床哲学の諸相』河合文化教育研究所、160～180頁。
171. 木村敏(2017)「「こと」としての生と死」『医学哲学医学倫理』第35号、42～48頁。
172. 木村敏(2017)「生と死のゲシュタルトクライス」木村敏・野家啓一監修『生命と

死のあいだ——臨床哲学の諸相』河合文化教育研究所、118～133 頁。